平成25年度作成　平成24年度施策評価表

（作成日：平成25年　7月10日）

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像（政策）	番号	7	名称	快適な生活を育むまち		
施策	番号	9	名称	人と自然が共生できる地域づくり		
主担当部	生涯学習部		主担当課	昆虫館	部長名	田原　勝則
関係部	市民文化部		関係課	産業振興課		

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	心安らぐ自然と人間とが共存するまちづくりが望まれています。そのため、市民だれもが楽しみながら安全に自然に触れることのできるまちづくりを進めます。長期的な視野に立って、生命あふれる里山・里地の整備や、身近に遊べる水辺の保全、鎮守の森を守る地域づくり等、自然環境の大切さを感じることのできる拠点づくりを行っていきます。

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
この施策の概況	市民のニーズとして、豊かな自然環境を守り、また、それに触れる体験が求められており、子どもたちを中心に地域住民が安心・安全に自然と触れることができる里山・里地の整備やその利活用、飛鳥川など身近に遊べる水辺環境の保全、大和三山をはじめとする鎮守の森や林を守る取り組みを、ボランティア団体と協働で進める。	温室効果ガス等の排出が原因とされる地球温暖化など自然環境が大きく変化し、ライフスタイルの多様化、子どもたちの自然から離れていく傾向にあるなかで、身近に多様な生き物を育んできた環境を調和が保たれてた里山・里地に整備し、守ると同時にそこから得られる様々な恵みを生かし、地域に役立てていくことが必要。
これまでの成果	昆虫館周辺の里山・里地の整備については、ボランティアとの協力により整備を行っている。飛鳥川等では地元小・中学校の生徒とともに環境調査および観察会等を行っている。	

4. 指標及びコストの推移

		名称及び単位等	23年度	24（評価）年度		25（今）年度	26（来）年度	29（総計目標）年度	備考欄
			実績	目標	実績	目標	目標	目標	
指標の推移	施策指標①（成果指標）	自然保護対策について満足している市民の割合		20%以上					
	施策指標②（成果指標）	自然保護対策について不満と感じている市民の割合		10%以下					
	施策指標③（成果指標）	市民一人当たり都市公園面積	7.02㎡	7.50㎡	7.25㎡	8.00㎡	8.50㎡	9.00㎡	
	施策指標④（成果指標）								
	施策指標⑤（成果指標）								

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	見込み	
	歳出（直接事業費）(a)		6,445	6,481	5,710	5,956	5,265		
	歳入（b）	受益者負担額							
		国や県からの補助金その他	140	2,739	2,739	320			
	(a)－(b)＝一般財源		6,305	3,742	2,971	5,636	5,265		
	正職員	従事者数（単位：人）	5.30	5.30	5.30	5.30	5.30		
		人件費(c)	33,199	32,876	32,876	32,876	32,876		
	トータルコスト (a)＋(c)		39,644	39,357	38,586	38,832	38,141		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	ボランティアグループと協力しながら、里地・里山での整備も継続し、また、地元の小学生とともに水辺の生き物調査を実施することで生物調査や観察会、生態系の学習について連携が図れ人と自然が共生できる地域づくりに向けての取り組みが進んでいる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	生物多様性の保全について進められているなかで、NPOやボランティアとの協力で生物調査や観察会を実施することで、自然環境や生態系について学習する拠点として貢献度は高い。				

6. 施策の課題

この施策の課題	緑地等の保全や景観の整備が進められているますが、まだ十分に利活用できていないところもあり安心・安全に自然に触れることのできる里山・里地の整備や利活用や保全をボランティア団体等と協働で進め、多様性の高い自然環境を守り、循環的に利用できる仕組みづくりが必要。

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	ボランティアグループと協力で里地・里山での整備も継続し、地元の小学生とともに水辺の生き物調査を行い特別展示や企画展、観察会などを行うことで人と自然が共生できる地域づくりの拠点として取り組みを進めているが、里山・里地の整備は定期的に人間が手を入れることで微妙な調和が保たれてきた環境であるため長期的に里山・里地の再生を図っていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性 （それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	市民が自然と触れ合うことを楽しみ、生物多様性の保全について自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行なう拠点として調査・研究を進めていく上でそれぞれの事務事業は連動しているため見直しながら継続していく。優先度の低い資料等管理事業については、生物調査を行った際の情報を発信する事業でもあるため廃止ではなく見直しながら続けていく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説
・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度（重要度）を絶対評価で示しています。
（a：不可欠かつ施策の中核をなす事業、b：不可欠な事業、c：不可欠ではないが実施が望ましい事業、d：あまり有効ではない事業）
・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
（拡大する、見直しながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する）
・優先度（ソフト事業（任意）のみ）－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
（優先度が高い順に　A、B、C、D）

（ソフト事業、内部管理・維持管理事業）

課名及び事務事業名（転記）	評価の種類（転記）		事業の内容（転記）	H24決算額（転記）	事務事業評価での方向性（転記）	施策評価		
						貢献度	方向性	優先度（ソフト任意）
産業振興課		ソフト 義務	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体を森林バンクに登録する事務をおこない、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。	114	2	b	見直しながら続ける	C
里山林機能回復整備事業	○	ソフト 任意						
		内部管理・維持管理						

課名及び事務事業名（転記）	評価の種類（転記）		事業の内容（転記）	H24決算額（転記）	事務事業評価での方向性（転記）	施策評価		
						貢献度	方向性	優先度（ソフト任意）
昆虫館		ソフト 義務	主に市内を中心とした河川や大和三山などで調査を実施し、それぞれの場所で生物の生態系がどのようになっているのかを分析するとともに、生息地に適した環境を累代飼育に活用する。また、八重山諸島でも現地調査を行う。同時に職員のスキルアップも目的としており、生体飼育研究や植物栽培研究、生態研究のほか、専門的な研修や学会にも参加し、学術論文を発表する。	921	2	a	見直しながら続ける	
生態系及び動植物の分布調査と研究事業		ソフト 任意						
	○	内部管理・維持管理						

課名及び事務事業名（転記）	評価の種類（転記）		事業の内容（転記）	H24決算額（転記）	事務事業評価での方向性（転記）	施策評価		
						貢献度	方向性	優先度（ソフト任意）
昆虫館		ソフト 義務	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会やゼミナール等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっぱいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。	669	2	a	見直しながら続ける	B
環境教育普及事業	○	ソフト 任意						
		内部管理・維持管理						

課名及び事務事業名（転記）	評価の種類（転記）		事業の内容（転記）	H24決算額（転記）	事務事業評価での方向性（転記）	施策評価		
						貢献度	方向性	優先度（ソフト任意）
昆虫館		ソフト 義務	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務があり重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。	2,407	2	c	見直しながら続ける	
資料等管理事業		ソフト 任意						
	○	内部管理・維持管理						

課名及び事務事業名（転記）	評価の種類（転記）		事業の内容（転記）	H24決算額（転記）	事務事業評価での方向性（転記）	施策評価		
						貢献度	方向性	優先度（ソフト任意）
昆虫館		ソフト 義務	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫を適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。	1,599	1	b	見直しながら続ける	
生体飼育業務		ソフト 任意						
	○	内部管理・維持管理						

平成25年度作成　平成24年度事務事業評価表　（作成日：平成25年　6月10日）

ソフト事業（義務）		○	ソフト事業（任意）		内部管理・維持管理事業

PLAN 計画

事務事業名	里山林機能回復整備事業						
担当課名	産業振興課			課長名	宮橋真二		
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち				
	施　策	9	人と自然が共生できる地域づくり				
予算事業名	農業振興事業費						
事業の開始年度	平成	18	年度	事業の終了予定年度	平成		年度

対象	里山林整備団体	事業の内容説明	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体を森林バンクに登録する事務をおこない、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。
事業の目的	住民の自主的な参加により、里山林の保全・整備及び活用の促進を図る。		

妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1　義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業
			2　任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業
			3　任意	市が関与することは妥当でない（縮小、廃止又は民営化すべき）事業
		説明	奈良県単独の事業であるため特に法令の定めは無いが、要綱要領に補助事業者は市町村でなければならないとなっている。	
	やめた場合の影響は	2	1　非常に大きい	2　ある程度はある　3　克服できる範囲内　4　ほとんどない
		説明	整備活動を行っているボランティアへの補助が出来ない。	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	23年度	24（評価）年度		25（今）年度	26（来）年度	29（総計目標）年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	機能回復面積(ha)	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
活動指標①	里山林整備団体数	1	1	1	1	1	1
活動指標②							

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出（直接事業費）（a）	114	115	114	115	115
	歳入（b）　受益者負担額					
	歳入（b）　国県補助金等その他					
	（a）－（b）＝一般財源	114	115	114	115	115
	正職員　従事者数（単位：人）	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
	正職員　人件費（c）	940	930	930	930	930
	トータルコスト（a）＋（c）	1,054	1,045	1,044	1,045	1,045
	単位当たりコスト　計算式等	5,268	5,227	5,222	5,227	5,227

備考（これまでの実績等）	

CHECK 評価	有効性評価 事業は有効か（指標に出ない効果）	成果は向上しているか	3	1　高い	2　やや高い	3　やや低い	4　低い		
			説明	整備活動は必要であるが、活動範囲が限られている。					
		上位施策への貢献度はどうか	2	1　高い	2　やや高い	3　やや低い	4　低い		
			説明	自然との共生を図るうえでは必要である。					
	効率性評価 経費削減は可能か		2	1　全くできない	2　あまりできない	3　少しはできる	4　大きくできる		
			説明	必要最低限の経費で作業を依頼しており、削減は出来ない。					
ACTION 修正行動	具体的にどうすることにより（手段） どんなことが期待できるか（効果）		奈良県中部農林振興事務所、市及び整備団体との連携をさらに密にすることにより、経費削減を図っていきたい。						
	（費用も含み）この事業の今後の方向性		2	1　拡大する	2　見直しながら続ける	3　縮小する	課内優先度	C	
				4　廃止又は休止する	5　完了する				
			説明	自然環境を保全するため、里山林の適正な整備・育成により、機能回復を図ります。					

平成25年度作成　平成24年度事務事業評価表

（作成日：平成25年　5月27日）

	ソフト事業（義務）		ソフト事業（任意）	○	内部管理・維持管理事業

PLAN 計画

事務事業名	生態系及び動植物の分布調査と研究事業						
担当課名	昆虫館			課長名	木村　史明		
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち				
	施　　策	9	人と自然が共生できる地域づくり				
予算事業名	昆虫館管理運営費						
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度

対象	昆虫館職員、地域住民、ボランティア、小学校	事業の内容説明	主に市内を中心とした河川や大和三山などで調査を実施し、それぞれの場所で生物の生態系がどのようになっているのかを分析するとともに、生息地に適した環境を累代飼育に活用する。また、八重山諸島でも現地調査を行う。同時に職員のスキルアップも目的としており、生体飼育研究や植物栽培研究、生態研究のほか、専門的な研修や学会にも参加し、学術論文を発表する。
事業の目的	職員が昆虫や植物の生態や分布の調査及び採集を行い、調査結果等を特別展や企画展、常設展示に反映し、市民（入館者）に還元する。さらに昆虫の生態や分布を知り、採集した昆虫の飼育や植物の栽培を通じて昆虫の飼育や植物の栽培技術の向上に努める。		

妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1　義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業		
			2　任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業		
			3　任意	市が関与することは妥当でない（縮小、廃止又は民営化すべき）事業		
		説明	自然系の施設が県内になく、生物多様性の観点から市が関与し、地域住民に地域の自然環境について情報を発信することで、人と自然との調和がとれたまちづくりを目指すため。			
	やめた場合の影響は	1	1　非常に大きい	2　ある程度はある	3　克服できる範囲内	4　ほとんどない
		説明	自然環境や生物多様性についての関心が薄れ、人と自然との調和がとれたまちづくりを築くことができない。			

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	23年度	24（評価）年度		25（今）年度	26（来）年度	29（総計目標）年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標							
活動指標①	研修会の参加回数（回）	9	9	9	9	9	9
活動指標②	調査回数（回）	6	6	6	6	6	6

コストの推移（単位：千円）			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	財源の内訳						
	歳出（直接事業費）（a）		1,231	898	921	419	331
	歳入（b）	受益者負担額	0	0	0	0	0
		国県補助金等その他	0	0	0	0	0
	（a）－（b）＝一般財源		1,231	898	921	419	331
	正職員	従事者数（単位：人）	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
		人件費（c）	9,396	9,305	9,305	9,305	9,305
	トータルコスト（a）＋（c）		10,627	10,203	10,226	9,724	9,636
	単位当たりコスト	トータルコスト／研修会の参加回数	3,617	3,546	3,548	4,182	4,172

備考（これまでの実績等）	

CHECK 評価	**有効性評価** 事業は有効か（指標に出ない効果）	成果は向上しているか	1	1　高い	2　やや高い	3　やや低い	4　低い
			説明	地域の小学校の児童と伴に授業の一環として取り入れ、河川の調査を行う。また、生体飼育研究や植物栽培研究、生態研究のほか、専門的な研修や学会にも参加し、フィールドブックを作成することができている。			
		上位施策への貢献度はどうか	1	1　高い	2　やや高い	3　やや低い	4　低い
			説明	授業の一環として河川の生き物出前授業として小学校等へ出向き、河川を中心に自然環境や生態系の保全について人と自然が共生できる地域づくりを積極的に進めており貢献度は高い。			
	効率性評価 経費削減は可能か		2	1　全くできない	2　あまりできない	3　少しはできる	4　大きくできる
			説明	調査・研究に対する回数や効果的な累代飼育の方法などを確立し、少しずつではあるがコストの低減に努力してきているが、　職員の派遣や調査回数に対してコスト削減はあまりできない。			
ACTION 修正行動	具体的にどうすることにより（手段） どんなことが期待できるか（効果）		大和三山や飛鳥川流域等の調査及び八重山諸島などの採集調査を実施することにより動植物のデータを集積する。調査で集積したデータを用いて展示の充実や観察教室に利用していくことで、職員のスキルアップを図る。生態飼育や植物栽培の研究や生態調査を実施し、生態系がどの様になっているか調査する。生態展示等の充実と安定につなげられ、飼育技術の向上に役立てられる。			
	（費用も含み）この事業の今後の方向性		2	1　拡大する	2　見直しながら続ける	3　縮小する	課内優先度	－
				4　廃止又は休止する	5　完了する		
			説明	展示内容や観察会の充実が図れるほか、生物調査等について地域の各種団体との連携を図りつつ、自然環境や生物系の保全の整備が進められる。			

平成25年度作成　平成24年度事務事業評価表　（作成日：平成25年　5月27日）

ソフト事業（義務）		○	ソフト事業（任意）		内部管理・維持管理事業

PLAN 計画

事務事業名	環境教育普及事業						
担当課名	昆虫館			課長名	木村　史明		
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち				
	施　　策	9	人と自然が共生できる地域づくり				
予算事業名	昆虫館管理運営費						
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度

対象	市民、ボランティア、小学校	事業の内容説明	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会やゼミナール等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっぱいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。
事業の目的	自然環境が減少していく中で、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため、里山や水辺等の環境保全と活用を進め、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点として、イベント等を実施し環境教育の普及を図り、学習機会の充実を図る。		

妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1　義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業		
			2　任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業		
			3　任意	市が関与することは妥当でない（縮小、廃止又は民営化すべき）事業		
		説明	子どもたちを取り巻く自然が減少していく中で、博物館が昆虫を中心として取り組む自然環境教育に対しての期待は大きく、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点として行っていく上で、社会的役割としての責務がある。市が関与することにより、学校現場との連携がとりやすく学べる拠点としての効果も大きい。		
	やめた場合の影響は	2	1　非常に大きい	2　ある程度はある	3　克服できる範囲内	4　ほとんどない
		説明	小学校との連携が困難となり、理科離れや自然環境に対し無関心が拡大し、貴重な学習の場が失われる。			

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	23年度	24（評価）年度		25（今）年度	26（来）年度	29（総計目標）年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	講座受講者数（人）	737	800	1,270	1,300	1,500	2,000
活動指標①	観察講座開催回数（回）	25	26	26	26	26	26
活動指標②	特別展・企画展入館者数（人）	53,226	55,000	73,713	74,000	74,000	75,000

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出（直接事業費）（a）		1,083	1,481	669	1,551	1,221
	歳入（b）	受益者負担額	0	0	0	0	0
		国県補助金等その他	140	2,739	2,739	320	0
	（a）－（b）＝一般財源		943	−1,258	−2,070	1,231	1,221
	正職員	従事者数（単位：人）	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90
		人件費（c）	11,902	11,786	11,786	11,786	11,786
	トータルコスト（a）＋（c）		12,985	13,267	12,455	13,337	13,007
	単位当たりコスト	トータルコスト／活動指標①	1,547	1,488	1,457	1,491	1,478

備考（これまでの実績等）	市内の小学校へ出前授業を実施し、学校現場との交流と教育普及を行った。

<table>
<tr><td rowspan="5">CHECK 評価</td><td rowspan="2">有効性評価
事業は有効か（指標に出ない効果）</td><td rowspan="2">成果は向上しているか</td><td>2</td><td>1　高い</td><td>2　やや高い</td><td>3　やや低い</td><td>4　低い</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">環境教育（観察会等）を通じた市民との交流やモンシロチョウの飼育教材を配布し、出前講座も一緒に行い、学校現場との交流も積極的に行っている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">上位施策への貢献度はどうか</td><td>2</td><td>1　高い</td><td>2　やや高い</td><td>3　やや低い</td><td>4　低い</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">ボランティア活動により昆虫館周辺の里山が整備されており、地域との交流また、自然との共生を図っている。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">効率性評価
経費削減は可能か</td><td>2</td><td>1　全くできない</td><td>2　あまりできない</td><td>3　少しはできる</td><td>4　大きくできる</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">コストの大半は人件費であるが、ボランティアから昆虫館へのイベント等に参加をしていただいており、最低限の交通費のみで対応している。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ACTION 修正行動</td><td colspan="2">具体的にどうすることにより（手段）
どんなことが期待できるか（効果）</td><td colspan="5">観察会やイベント等の開催については、限られた人員で通常業務に加えて運営しているためイベント開催時になると職員のみでの対応に限界があるため、職員の人員配置を考え、ボランティアの方に参加していただきながらイベントの効果が最大に得られるように企画運営する。橿原市内の小学校の出前授業にはモンシロチョウの飼育キットを使用しながら行うことで教育の普及に貢献する。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">（費用も含み）この事業の今後の方向性</td><td rowspan="2">2</td><td>1　拡大する</td><td>2　見直しながら続ける</td><td>3　縮小する</td><td rowspan="2">課内優先度</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>4　廃止又は休止する</td><td>5　完了する</td><td></td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="5">市民参加によるイベントの企画を計画し、学校との連携を続けていく。昆虫館からの企画だけでなく、ボランティア活動からの提案も盛り込みながら、体験型事業も企画し参加者の増加を図る。</td></tr>
</table>

平成25年度作成　平成24年度事務事業評価表　（作成日：平成25年　5月27日）

	ソフト事業（義務）		ソフト事業（任意）	○	内部管理・維持管理事業	

PLAN 計画

事務事業名	資料等管理事業						
担当課名	昆虫館			課長名	木村　史明		
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち				
	施　　策	9	人と自然が共生できる地域づくり				
予算事業名	昆虫館管理運営費						
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度

対象	昆虫館入館者、昆虫館職員	事業の内容説明	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務があり重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。
事業の目的	昆虫資料・標本の収集と収蔵保管の充実を図り、収蔵標本の情報発信を行う。		

妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1　義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業		
			2　任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業		
			3　任意	市が関与することは妥当でない（縮小、廃止又は民営化すべき）事業		
		説明	地域の動植物の調査を行い収集した標本等を収蔵し資料として情報を発信することは社会的役割としても、博物館としての責務である。市が関与することで、学校現場へ資料の提供や学校現場との連携もとりやすく効果も大きい。			
	やめた場合の影響は	2	1　非常に大きい	2　ある程度はある	3　克服できる範囲内	4　ほとんどない
		説明	自然環境や生物多様性に関して無関心が拡大し、貴重な自然の遺産が損なわれる。			

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	23年度	24（評価）年度		25（今）年度	26（来）年度	29（総計目標）年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標							
活動指標①	収蔵書籍数（冊）	101,000	101,100	101,124	101,200	101,300	101,400
活動指標②	標本数（匹）	30,000	30,000	30,050	30,100	30,150	30,300

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出（直接事業費）（a）	2,028	2,310	2,407	2,361	2,056
	歳入（b）　受益者負担額	0	0	0	0	0
	歳入（b）　国県補助金等その他	0	0	0	0	0
	（a）－（b）＝一般財源	2,028	2,310	2,407	2,361	2,056
	正職員　従事者数（単位：人）	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65
	正職員　人件費（c）	4,072	4,032	4,032	4,032	4,032
	トータルコスト（a）＋（c）	6,100	6,342	6,439	6,393	6,088
	単位当たりコスト　トータルコスト／活動指標②	0	0	0	0	0

備考（これまでの実績等）	

CHECK 評価	有効性評価 事業は有効か（指標に出ない効果）	成果は向上しているか	2	1　高い	2　やや高い	3　やや低い	4　低い
			説明	寄贈標本など特別展や企画展などに展示し、博物館の責務とし公開している。市が関与していることで、一般市民より貴重な標本資料の提供がある。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1　高い	2　やや高い	3　やや低い	4　低い
			説明	今では手に入らない標本を展示し、自然環境や生物の多様性について学ぶことができ、人と自然が共生できるまちづくりについて理解が高まる。			
	効率性評価 経費削減は可能か		1	1　全くできない	2　あまりできない	3　少しはできる	4　大きくできる
			説明	システムにかかるコストと人件費のため、低減の余地がない。			
ACTION 修正行動	具体的にどうすることにより（手段） どんなことが期待できるか（効果）		新館が完成し、収納スペースが確保されたことにより、標本の整理や書籍の収蔵におけるハード面でのスペース的に広くなった。今後は、橿原市内の動植物の資料が少ないためこれらを調査・研究を行い収集を行う。昆虫館情報システムにデータとして入力し、有効活用することで、地域の自然環境の変化などについて学ぶことができる。			
	（費用も含み）この事業の今後の方向性		2	1　拡大する	2　見直しながら続ける	3　縮小する	課内優先度：－
				4　廃止又は休止する	5　完了する		
			説明	収蔵庫が増設されているが、大量の標本の整理が未整理である。整理を行うには時間と労力が必要で、人員の増員がない限り、現行の体制で少しずつ整理を進めていく。収蔵して展示しなければ意味がなく、小学校への貸出しや出前授業にて有効に利用する。			

平成25年度作成　平成24年度事務事業評価表　（作成日：平成25年　5月27日）

	ソフト事業（義務）		ソフト事業（任意）	○	内部管理・維持管理事業	

PLAN 計画

事務事業名	生体飼育業務						
担当課名	昆虫館			課長名	木村　史明		
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち				
	施　　策	9	人と自然が共生できる地域づくり				
予算事業名	昆虫館管理運営費						
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度

対象	昆虫館入館者、昆虫館職員	事業の内容説明	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫を適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。
事業の目的	累代飼育を中心に生態（昆虫の生活している状況）を人工的につくり維持して飼育する。		

妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1　義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業
			2　任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業
			3　任意	市が関与することは妥当でない（縮小、廃止又は民営化すべき）事業
		説明	昆虫館として社会的な役割として、昆虫などの生物をとおして自然環境に対する環境教育が大きく、博物館としての責務である。	
	やめた場合の影響は		1　非常に大きい	2　ある程度はある　3　克服できる範囲内　4　ほとんどない
		説明	出前授業など小学校への連携が困難となり、自然環境や生物に対しての関心が無くなってしまい、学習の場が失われる。	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	23年度	24（評価）年度		25（今）年度	26（来）年度	29（総計目標）年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標							
活動指標①	飼育・展示種類数（種）	79	80	85	89	92	100
活動指標②	年間放蝶数（匹）	14,530	14,530	14,600	14,650	14,650	14,650

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出（直接事業費）（a）		1,989	1,677	1,599	1,510	1,542
	歳入（b）	受益者負担額	0	0	0	0	0
		国県補助金等その他	0	0	0	0	0
	（a）－（b）＝一般財源		1,989	1,677	1,599	1,510	1,542
	正職員	従事者数（単位：人）	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10
		人件費（c）	6,890	6,823	6,823	6,823	6,823
	トータルコスト（a）＋（c）		8,879	8,500	8,422	8,333	8,365
	単位当たりコスト	トータルコスト／活動指標①	184	176	165	156	147

備考（これまでの実績等）	安定した累代飼育を行うために、周辺地域の生態分布調査や他の施設との情報交換を行う。

<table>
<tr><td rowspan="6">CHECK 評価</td><td rowspan="4">**有効性評価**
事業は有効か（指標に出ない効果）</td><td rowspan="2">成果は向上しているか</td><td>2</td><td>1　高い</td><td>2　やや高い</td><td>3　やや低い</td><td>4　低い</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">安定した飼育を行い、入館者の満足度が高い。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">上位施策への貢献度はどうか</td><td>2</td><td>1　高い</td><td>2　やや高い</td><td>3　やや低い</td><td>4　低い</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">昆虫館の裏山をボランティアが中心となって整備し、昆虫の種類が少しずつ増えてきた。フィールドを利用し人と自然が共生できる地域づくりを進める。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">**効率性評価**
経費削減は可能か</td><td>3</td><td>1　全くできない</td><td>2　あまりできない</td><td>3　少しはできる</td><td>4　大きくできる</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">館内の展示効果を向上させ生態展示を拡大するためには、より多くの生きた昆虫が必要である。飼育研究やマニュアル化を行うことで飼育技術が向上し、人件費の低減となる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ACTION 修正行動</td><td colspan="2">具体的にどうすることにより（手段）</td><td colspan="5" rowspan="2">累代飼育による生態展示を確立し続けているが、累代飼育を続けると近親交配によって累代が不可能になってくる。何度も現地への採集も困難である。そのため採集困難な昆虫は購入、無償提供を受けている。最近は外国産の昆虫（カブトムシやクワガタ）を飼育している人からの提供も多い。他の施設にも協力を求める。また、飼育困難な場合の受け入れの連絡態勢を工夫することで、安定した生態展示が可能となる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">どんなことが期待できるか（効果）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">（費用も含み）この事業の今後の方向性</td><td rowspan="2">1</td><td>1　拡大する</td><td>2　見直しながら続ける</td><td>3　縮小する</td><td rowspan="2">課内優先度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>4　廃止又は休止する</td><td>5　完了する</td><td></td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="5">標本より生きた昆虫を展示し、ふれあえる機会を増やす。生態展示の昆虫を維持するためには飼育体制や飼育内容の充実を図る。</td></tr>
</table>